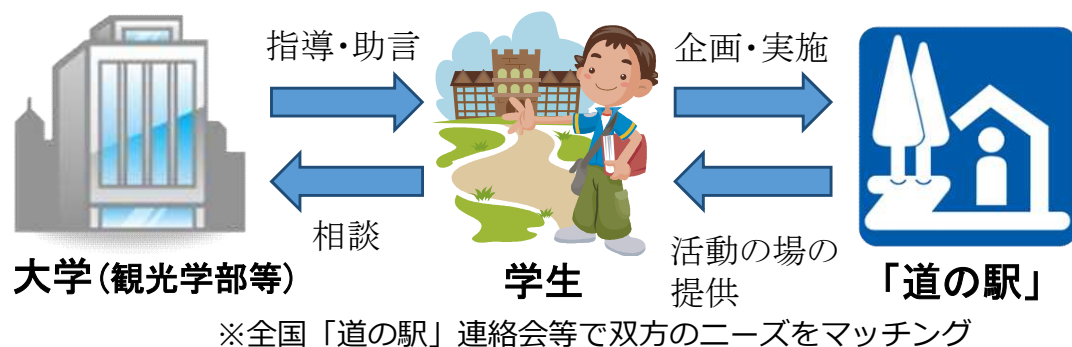


大学連携の取組について

「道の駅」と大学の連携について

- 「道の駅」における大学との連携、受入体制を整備し、若者の実習や交流の場として活用。
- 地域の魅力の集まる「道の駅」と、観光学等を学ぶ若者の交流により、**新たな価値の創造**を図り、観光・地域づくりを担う**将来の人材育成**や**地方創生**にも寄与。
- 就労体験型と連携企画型の2タイプを実施。

実施イメージ



実施のメリット

<大学のメリット>

- **道の駅は、地域の資源が集中し、地方が直面する課題が明確であり、学習するフィールドとして最適**

<「道の駅」のメリット>

- **若者ならではの視点、若者の元気による実行力のある企画の実施**
- **SNSや口コミなどを活用した情報発信**

就労体験型と連携企画型について

項目	就労体験型	連携企画型
期間	夏期休暇を活用した 概ね2週間 以上の長期宿泊型を想定	通年の授業 の中での通いを想定
受入学生	全国 の大学を想定	道の駅 近傍 の大学を想定
受入人数	学生個人単位	ゼミ単位 (少人数~10名程度のグループを想定)

大学連携の取組状況(連携企画型)

- 道の駅において学生が実地調査等を行い、様々な連携企画の取組を実施してきているが、平成27年度の開始以降、実施する大学は年々減少(約4割減)
- 連携企画の取組の成果については、道の駅での報告にとどまっているのが大半であり、参加した大学や道の駅関係者等が集まり、成果発表会を実施しているのは関東地整のみ。

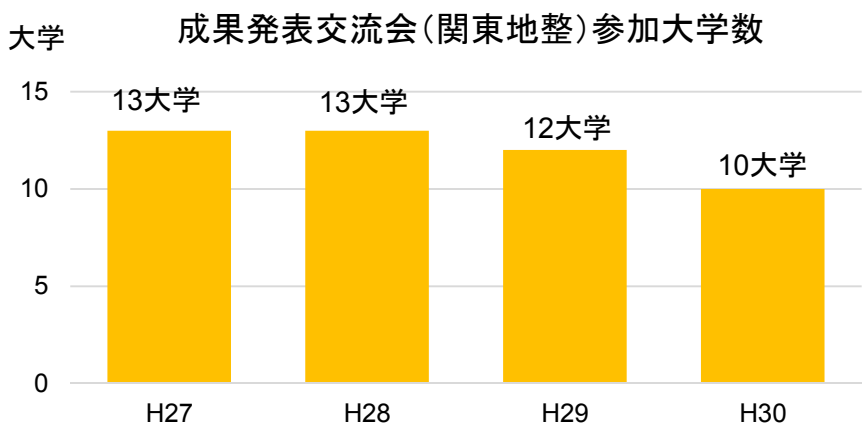
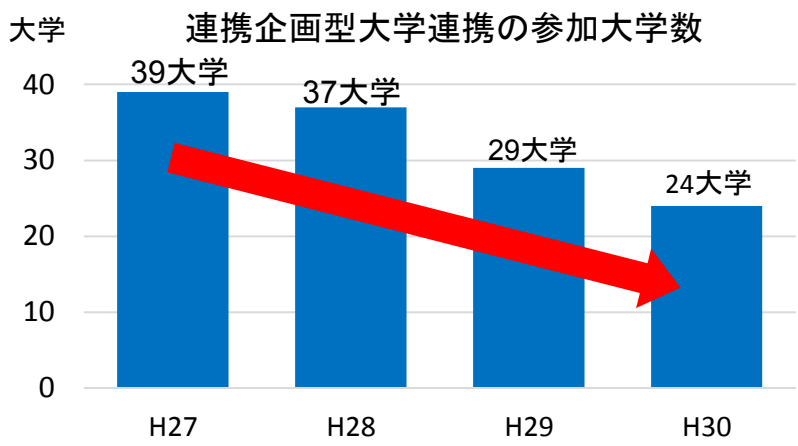
【連携企画の取組事例】

- ・地域特産物を使った商品開発・販売
- ・地域独自の地域資源を活かしたイベントの企画・運営
- ・外国人観光客へのアンケート調査の実施や多言語ポータルサイトの作成



【大学連携成果発表交流会】

- 主催者 : 国土交通省 関東地方整備局
- 参加大学 : 連携企画型大学連携を実施した大学
- 出席者 : 学生、道の駅関係者、国土交通省職員等



「道の駅」と大学の連携の活性化にむけて

① 「道の駅」と大学（学生）とのマッチングが機能しているか

- ・ 国道事務所等の職員が直接大学や道の駅と調整しており、継続的に実施できる体制となっていない
- ・ 「道の駅」における課題と大学（学生）が取り組みたいことにズレがある場合がある

② 大学（学生）側の取り組み体制やニーズにあった仕組みとなっているか

- ・ 基本はゼミ単位等での取組となっている
- ・ 通年の授業の中で取り組んでいる事例と夏季休暇等を活用して集中的に取り組んでいる

③ 大学連携の取組が十分に周知されているか

- ・ ①のとおり、個別にアプローチされているのみで、大学連携の取組についての周知が十分に行われていない

中間整理(抜粋)

○ 大学等との連携により、地域や道の駅を担う人材育成を強化し、地域の希望を生む取組を促進すべきではないか。

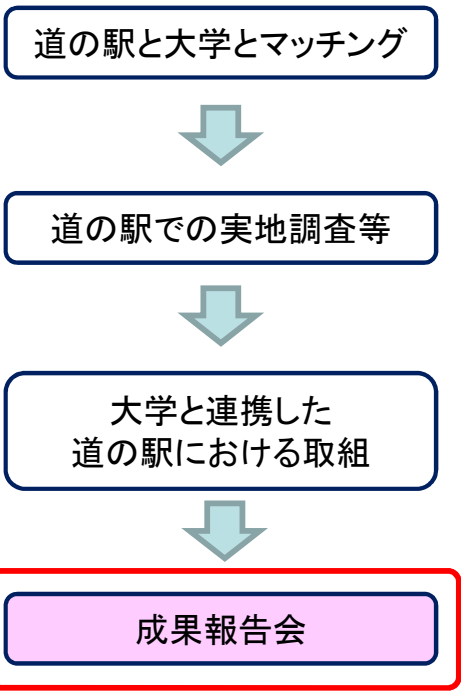
- ・ 大学等との連携による、若者の実習や交流の場としてのインターシップの受入、連携企画による商品開発の推進
- ・ 各地区におけるインターシップの成果発表会や全国グランプリの実施による大学等の参加意欲の促進等

大学連携に関する今後の取組(案)

○ 「道の駅」と大学が連携して実施した取組等について、コンテスト形式の成果発表会を実施することにより、取組の周知を図るとともに、学生が参加するインセンティブを高めてはどうか

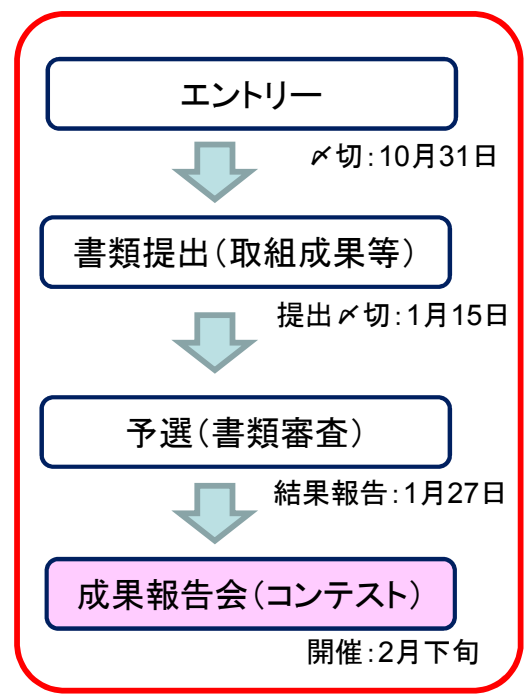
H30年度

関東地整において、大学連携の成果報告会を実施



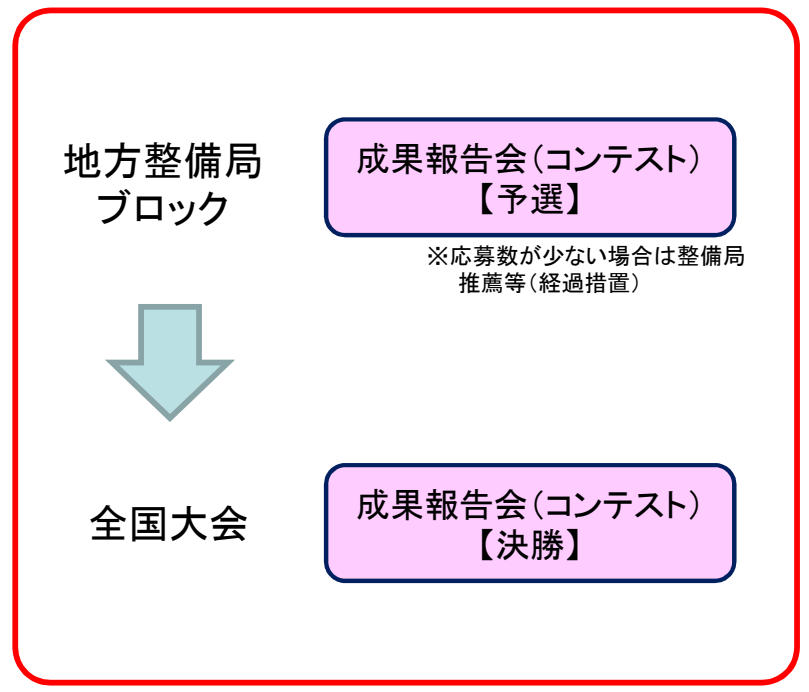
R元年度

関東地整において、成果報告会を**コンテスト形式に変更**【順位付けし、表彰(整備局長賞等)】



R2年度～

関東地整における取組を全国の地整等に拡大し、**全国大会(グランプリ)を開催**【順位付けし、表彰(道路局長賞等)】



■その他検討事項

- ・継続的な取組をするため、全国道の駅連絡会と連携について検討
- ・「道の駅」と大学とをマッチングする仕組みの再構築